

今号の特集は、根尾昌志先生が編集した「脊椎脊髄外科における最新の超音波診断」です。超音波検査が脊椎脊髄の術中診断に導入された頃、硬膜を通して脊髄の拍動がみえたことにとっても感激したことを思い出します。脊髄そのものが拍動しているのではなく、脊髄周囲の血管の拍動の影響なのですが、いかにも脊髄が生きているように見え、別世界をみている気がしました。そして、硬膜を介して脊髄の除圧が真に達成できているかの判定が可能になったこと（胸椎後縦靱帯骨化症後方手術において特に有用）や、硬膜を介して硬膜内腫瘍の局在、脊髄を介して髄内腫瘍の局在も把握しながら脊髄腫瘍摘出手術ができるようにもなりました。

そして現在、超音波検査はどの科においても大変一般的な検査となりました。脊椎脊髄外科においても手術支援器機としてだけでなく、いろいろな方面での臨床応用がされるようになりました。今回はその新技術・臨床応用が紹介されており、著者の皆様のおかげで新たな「脊椎脊髄外科における最新の超音波診断」を勉強する機会を提供していただきました。

なお私事で恐縮ですが、今号の編集後記をもちまして本誌の編集委員長を退くことになりました。読者の皆様、編集委員の先生方、執筆者の先生方、そして三輪書店の関係者の皆様ありがとうございました。本誌は1988年に創刊され、わが国唯一の脊椎脊髄病専門誌で、当時珍しかった総説主体の学術商業誌でした。私は1994年以降、愛読者モニターのひとりとして、2000年以降は編集幹事会として実際の編集に参加させていただきました。おかげさまで多くのことを勉強させていただく機会を得ました。実臨床では、上級医、指導医に対する病態と現状、治療法選択の説明手段として本誌を汎用させていただきました。幸いなことに、わが国の脊椎脊髄病関連の進歩はとどまることなく、企画の枯渇は皆無でした。今後の本誌の発展ならびに皆様方のご活躍を祈念して御礼の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。最後に、新型コロナウイルス問題で社会的に大変な時期でもあります。ご自愛ください。

(徳橋泰明)

脊椎脊髄ジャーナル

編集顧問

萬年 徹 高橋 昭 金田清志
小山素麿 小柳知彦 田代邦雄
国分正一 服部孝道

編集委員

徳橋泰明（編集委員長）
金 彪（副編集委員長）
青木茂樹 亀山 隆 園生雅弘
高橋敏行 高安正和 谷 論
永島英樹 中村雅也 根尾昌志
飛驒一利 松山幸弘 山崎正志

Vol. 33 No. 5
(2020年5月25日発行)

毎月1回25日発行

1部定価（本体2,500円＋税）

（配送料別）

年ぎめ予約購読料 33,300円＋税

送料弊社負担

発行／株式会社 三輪書店
代表者 青山 智

〒113-0033

東京都文京区本郷6-17-9

本郷綱ビル

TEL 03-3816-7796

FAX 03-3816-7756

URL <http://www.miwapubl.com/>

（担当：山岸）

印刷所／三報社印刷株式会社

TEL 03-3637-0005

広告申込所／

（株）文栄社

TEL 03-3814-8541

（株）ハイブリッジエージェンシー

TEL 03-3814-0089

本誌の内容の無断複写・複製・転載は著作権・出版権の侵害となることがありますのでご注意ください。

Published by MIWA-SHOTEN Ltd.
6-17-9 Hongo, Bunkyo-ku, TOKYO © 2020,
Printed in Japan

3COPY 〈出版者著作権管理機構 委託出版物〉

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前、出版者著作権管理機構（電話 03-5244-5088, FAX 03-5244-5089, e-mail: info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。